

第7章 地域別環境配慮

環境目標の実現をめざして具体的取組みを進めていくためには、地域の特性に配慮していく必要があります。

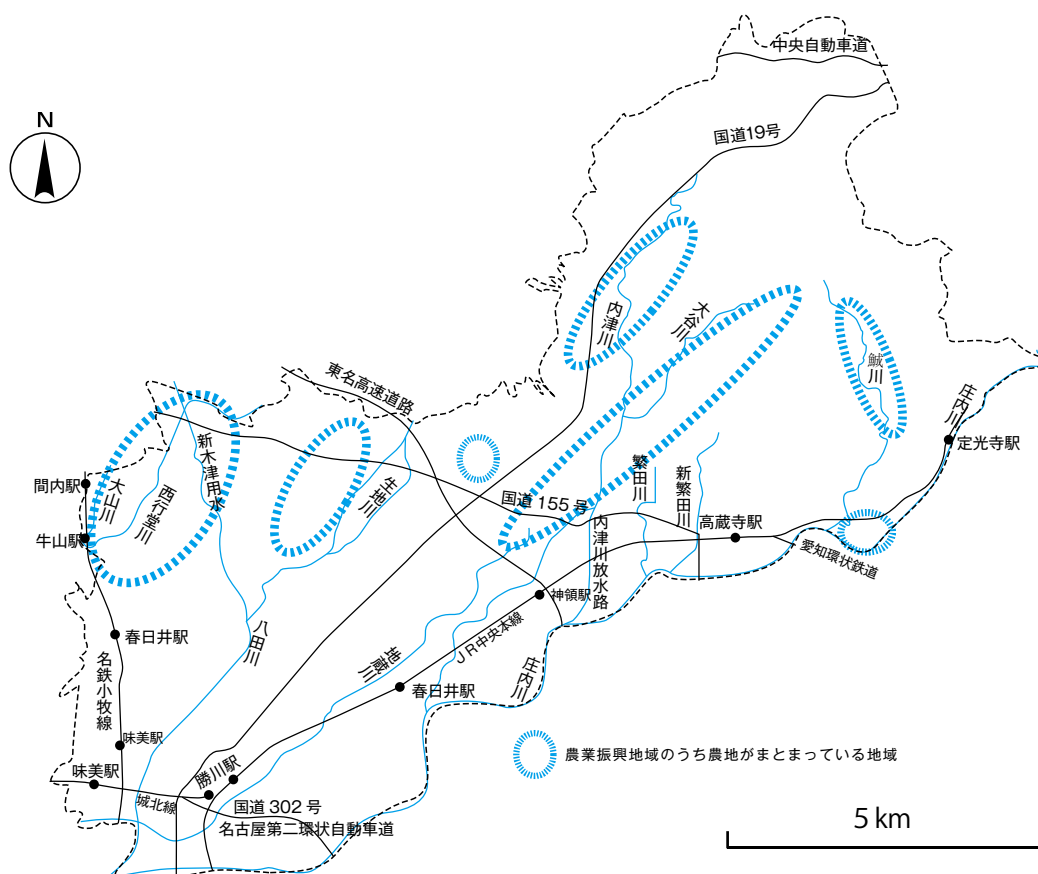
この章では、自然をいかした土地利用、自動車利用の抑制及び自然資源の保全に関する地域ごとの環境への配慮について示しています。

1 自然をいかした土地利用のための地域別配慮

(1) 農地の保全

【取組みの進め方】 健全な水循環、自然との共存、環境に配慮した土地利用の観点から、取組みを進めます。

- 市街化調整区域の農業振興地域のうち、農用地区域及び農地が集団化している地域では、長期的に農地を保全します。また、農地と宅地が混在する地域は、農業的土地利用と都市的土地利用の調和を図りながら農地を保全します。
- 農業関係団体などとの連携により、農地の有効利用を促進し、耕作放棄地の縮減に努めます。
- 市街化区域内の生産緑地については、保水機能や緑地空間の創設など都市における良好な環境の形成に資するように適正な保全を促します。



(2) 緑の活用

【取組みの進め方】 地域の特性に配慮した公園整備、市民、事業者の協力による緑の拡大、緑のネットワーク形成の観点から取組みを進めます。

- 豊かな自然環境が残る東部丘陵地域では、都市緑化植物園や少年自然の家など既存施設の一体的利用を図り、自然と親しめる貴重な空間として活用に努めます。また、市街地の公園などの緑化を推進し、自然豊かな市街地の形成に努めます。
- 河川を活かした水と緑の景観形成や緑に親しめる歩行者空間の創出、並木の整備などにより、緑のネットワークの形成に努めます。
- 公共施設の緑化を推進するとともに、事業所や宅地造成における緑化を促進し、緑豊かでくつろぎのある快適な環境の創出に努めます。

2 自動車利用を抑制するための地域別配慮

(1) 公共交通機関の利用

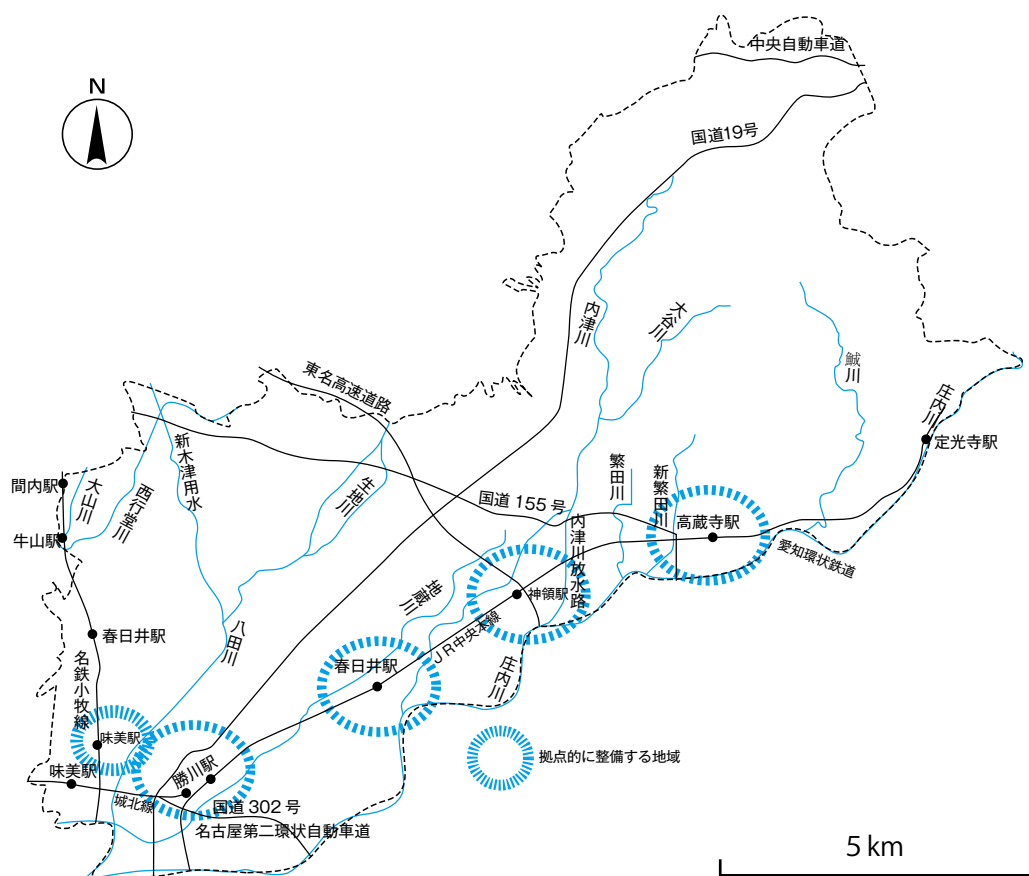
【取組みの進め方】 自動車の利用抑制による環境負荷の低減などの観点からの取組みを進めます。

- 公共交通利用の必要性や重要性をPRし、自家用車から公共交通への転換を促します。
- 鉄道については、鉄道施設の整備や増強を事業者に要望し、鉄道の利便性向上を図ります。また、鉄道駅周辺の駐輪場の整備に取り組めます。
- バス路線については、利便性の高いバス交通網の形成やバス停環境の改善などを事業者に要望し、利用者の満足度向上を図ります。

(2) 自転車道・歩道の整備

【取組みの進め方】 自転車や徒歩で利用しやすいまちづくりとそのネットワーク化の観点から取組みを進めます。

- J R勝川駅、春日井駅、神領駅、高蔵寺駅及び名鉄味美駅周辺地区を都市拠点として形成し、交通結節点となる鉄道駅周辺は、歩道や駐輪場の整備に取り組めます。
- 多くの人に利用される駅や病院、公共施設の周辺道路においては、適切な歩道幅員を確保します。
- 尾張広域緑道やふれあい緑道などの緑道については、自転車や歩行者が安全で快適に移動することができるネットワークとして活用を図ります。



(2) 水辺の整備

【取組みの進め方】 水質の保全、水辺の動植物の生息環境の保全、水辺を活用した自然体験の機会の充実などの観点から取組みを進めます。

- 希少な動植物の生息環境となる河川や湿地、ため池については、その保全に取り組めます。
- 河川などに魚類や水生昆虫が生息できる環境を保全します。また、自然を活かした川づくりなどを行い、環境について学ぶ機会と場の充実を図ります。
- 市内には生活排水が流入する河川があるため、生活排水対策の推進により水質の汚濁防止に努めます。

